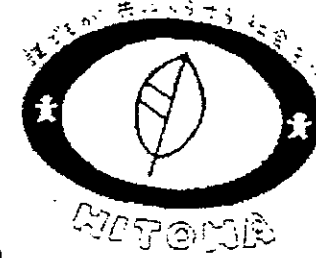


2019年(R元年)

12月

No. 335

# ひとはろうしん



社会福祉法人 ひとは福社会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホム) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

- 高度な知識や経験値を有し、民間企業に勤務しながら副業先を探している
- 方々と、人材不足に悩む安芸高田市の企業とのマッチングをサポートするプロジェクトの一環として、東京などから12名がひとはに訪問されました。IT、アート、広告、様々な職種やスキルを有した方が参加され、ひとはの取り組み(日常)を紹介しました。
- 最初はお互い少々緊張気味にスタート。その雰囲気を一変したのは、きららの白菊さんの「おーよう来たの〜。どっから来たんや。」のいつもの陽気な挨拶です。
- 意見交換時には、発信方法を再考しながら自慢上手になつた方がいい、活動に入りきららの人から感性を学びたい等、こちらが思ってもみなかった感想がでました。
- 自然に囲まれた安芸高田市で就業、生活することや、知的な障害がある人達と共に活動する私達の日常は、都心の民間企業で働く人達にとって非日常である事。そういった人達にきららの取り組みが届いていないことをあらためて実感しました。訪問時間を過ぎても質問が途切れなかつたこともあり、宿泊先にも呼んでいただき、そこでも質問や提案が途切れることなく、きららの人達の魅力を語り合うことが出来ました。

- 終始眉間にシワを寄せ、不機嫌そうに話を聞いている、少しおっかないな〜と思っていた方が、別れ際に「涙が出るほど感動した」と一言。
- 「ひとはは世間が抱えている障がい者施設の価値観をひっくり返すポテンシャルを持っている」  
(事務局 寺尾真)

安芸高田市権利擁護部員として、私は当事者の立場から、市内の福祉サービス事業所へ見学に行きました。

初めに行った事業所では仕事に集中しやすい環境を作るために、一人一人に仕切りが設けられており、モチベーションを上げるために好きなぬいぐるみやアイドルの写真を傍に置いて仕事をされていました。

次に行った事業所では部屋が一つのため、その中で作業と休憩がしやすいように工夫されていました。トイレが一つしかないという課題があり、ある時間帯には行列ができることが悩みの方でした。

両事業所を見学して印象に残ったことは、笑顔が素敵だったことです。働くことを楽しみにされていることが伝わり、障害のある方もそうでない方にとっても、皆が笑顔で働きたい場所がもっと増えていくといいなと感じました。私も、法人事務局で働く中で聴こえていた時、要約筆記をしてもらったり、マイクを使ってもらったりすることで、働きやすい環境だと感じています。

※安芸高田市権利擁護部会は障害当事者、家族、行政、関係機関が一体となり、進める部会です。  
(事務局 岡川智美)

**受賞しました!!**

この度、公益社団法人日本食品衛生協会から、優良施設として就労センターあぶが会長賞をいただきました。食品製造を行っている中で、商品では賞をいただいたことはありますが、衛生面で表彰されることはありませんでした。この受賞を励みに、今後も良いものをお届けしていきます。

**年末年始休暇のおしらせ**

ひとは館 さつき亭  
12/28(土) ~ 1/7(火) 12/28(土) ~ 1/6(月)

「ひとはの文化がこの一冊に!!」

**オールひとはのカレンダー2020**

1冊 1,200円 (税込・送料別) ※数に限りがありますので、お早目にご連絡ください。

就労センターあぶ  
TEL 0826-45-7171  
メル appu@hitoha-fukushi.com

ひ

### 「しずかにしめてーや」

中田 沙登志さん。どこか柔らかな、雰囲気のある、懐の深い人だと感じています。彼がいる共同ホームひとほで支援を行った日のこと。いつものように入浴支援のための、部屋に迎えに行きました。一緒に出て、何気なく引き戸を閉めた瞬間、沙登志さんの身体がビクッとしました。しばらく歩いたところで彼が「ホッ」と言いました。

### 「しずかにしめてーや」

私にとってここは職場ですが、彼にとっては大切な生活の場。忙しさを理由に境界線を越え、ぞんざいな行動をしていたか、とその言葉はズシリと心に響きました。(ひとほ作業所 村井康二)

と

は

### 「初めての仕事」

初めてのアグリサポート、今までと全く違う環境で不安だらけ。「作業を始めましょう」と全体に声掛けをしても、後ろをついていき作業の様子を見ているだけ。みんなの動きを見て学んでいく日々でした。そんなある日のこと。もみ殻を袋詰めして初めてのシーラー作業をしました。案の定失敗。けれどもそのときベテランの政本さんが「初めてなんだからしょうがないよ。回数こなすうちに上手になるよ」と。迷惑をかけながらも、みんなの仕事を見て、自分も早くみんなに追いつきたいです。(就労センターあふ 田端直哉)

の

日

### 「続・お気に入りは何ですか？」

今年のきらう方旅行は高知県へ。あいにくの雨でしたが、建物内で観光できるアンパンミュージアムだったので、みんな思い思いに観て過ごしていました。外輪さんは、手にお気に入りの物を何か一つ持ちたいという思いがあり、旅先で『宝物』が見つかりました。それは、アンパンマンの人形です。お土産屋さんに入ると、すぐに手に取っていました。会計を済ませ、めでたく外輪さんの宝物に。移動車のバスの中でも、握りしめていたのですが、何が気に入らなくなりました。お土産のホイと投げて、飲み干したコーラのボトルが次の宝物になってしまっている。旅行から帰ると人形がカバンから出されることはありませんでした。(共同ホーム 高田和美)

々

### 「ONE TEAM」

寮でのある出来事。吉高さんが「朝食を食べていると「お茶持ってこようか?」、ご飯をあまじく食べなかったら「ゼリー持ってこようか?」とすかさず声をかける向井さん。時には、口の周りに食べ物がついていて口を拭いてくれます。数日後、向井さんが「さえない表情をしていると、吉高さんは「元気を出して」と言わんばかりの笑顔でしゃべっています。今年日本ラグビーワールドカップが開催され、「ONE TEAM」というスローガンで史上初のベスト8に進出しました。ラグビーとは意味合いが違うかもしれませんが、この二人は強い結束で支え合っています。(ひとほ工房 松本拓也)

### 「メガネの奥に」

地図やパンフレットを見るのが大好きな中学生の重慶さん。学校が早下校の日は、図書館に行くことが楽しみとなっています。先日、選り終わった後自分の元に来た重慶さんに何を借りたか聞くと、2冊は夕古屋と金沢のまぶる。残りの1冊は日本史の年表でした。なぜ日本史の年表を選んだのか聞いてみると「授業やテストで出た内容がもしかいたら載っているかもしれないから」とのこと。こういう少しの興味が新しい知識を得るチャンスになっている、博識になっていく重慶さんです。(くらむしぼん 山崎真志郎)

### 「収穫の秋でした」

長田下地域の運動会に参加し、賞品として1バツを見事ゲットした増長さん。肌身離れさず持ち歩くその中には、葉、は、や、つ、う、し、ん。時には作業所で収穫したさつま芋が入っていることも。散歩途中で拾うどんぐりや松ぼっくりを見かけると、「今年もこの時期がきたな」と感じます。明日は何か入ってるのかな? (共同ホーム 久家徹也)

来年の干支販売します♡  
岡部 洋治郎さん手作りのねずみ達、ひっくり返すとひとほの葉っぱのマークが描かれています。ひとほ館、八千代産直市、ささき亭などに。

\* 編集後記 \*  
広島県国民健康保険団連連合会が発行している「ひろしまの国保」11月号に、ひとほ福祉社会を特集していただきました。お二人の写真と、ひとほのことがよくわかる内容となっています。和(2)号日取村に同行しました。(竹内宏美)